

スクールソーシャルワーク演習

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 1

【授業のねらい】

「SSW演習」では「SSW論」の内容を踏まえて、個別事例へのアセスメントはもちろんのこと学校、地域及び教育行政を把握し、地域全体をアセスメントする力を培う。また、SSW実践、特にマイクロ・メゾ・マクロプラクティスについて体験的に習得する。さらに、記録などを説明できる力と効果測定を行う力を身につける。

【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション : 「SSW演習」の目的、全国及び沖縄県内のSSW事業の現状
- ②SWの価値 : 「社会福祉士の倫理綱領」、「SSWrの活動指針」
- ③学校・地域のアセスメント : 学校、県・市町村教育委員会、教育センター、適応指導教室及び学校を支援する人材
- ④マイクロプラクティス : 支援プロセス(アセスメント、プランニング、インターベンション等)、ソーシャルワークスキル
- ⑤メゾプラクティス : チームアプローチ、ケースマネジメント、校内ケース会議、拡大ケース会議
- ⑥マクロプラクティス : 学外の社会資源の活用、市町村の子ども家庭相談体制、「連携」の意味、ソーシャルアクション
- ⑦事例から学ぶ その1 : 実践事例集より
- ⑧事例から学ぶ その2 : 実践事例集より
- ⑨記録 その1 : 記録の意義、データの蓄積、説明責任
- ⑩記録 その2 : エコマップ
- ⑪スーパービジョン・評価 : 効果測定、スーパービジョン体制の確立
- ⑫実践事例 その1 : DVD視聴 あるSSWrの実践
- ⑬実践事例 その2 : DVD視聴 修復的対話
- ⑭実践事例 その3 : ゲストスピーカー 現役SSWrから
- ⑮まとめ その1
- ⑯まとめ その2

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心をもち、可能ならば新聞等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

【評価方法】

授業態度、出席状況、レポート等を総合して評価する。

【テキスト】

山野・野田・半羽編著(2012)『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

- ①山下・内田・牧野編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』、学苑社。
- ②門田・鈴木編著(2010)：『学校ソーシャルワーク演習－実習のための手続き』、ミネルヴァ書房。
- ③日本学校SW学会編(2008)：『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規。

スクールソーシャルワーク実習指導

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

スクールソーシャルワーク(以下、SSW)実習の意義について理解する。具体的には、学校現場におけるSSWrの必要性やケース会議、チームアプローチ、実習日誌(記録)の重要性などについて学ぶ。さらに、実習直前ということを含め、実習目標・実習計画を明確にし実習に臨めるようにする。加えて、子どもや学校、教職員から自己(スクールソーシャルワーカー：以下SSWr)に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 学校におけるSSWrの必要性
3. ～4. ケース会議(校内・拡大ケース会議)
5. ～6. チームアプローチ
7. ～8. 記録の重要性
9. ～10. 個人のプライバシーと守秘義務
11. ～12. スーパービジョンとその必要性
13. ～15. 実習目標と実習計画
16. まとめ

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極敵に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境(学校、教育、福祉、地域)に関心をもち、可能ならば新聞等のマスコミで取りあげられる記事をスクラップすることを望む。

【評価方法】

授業態度、出席状況、レポート等を総合して評価する。

【テキスト】

山野則子ほか(2012)：『よくわかる スクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房。

【参考文献】

山下・内田・牧野編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』学苑社。

門田・奥村(2009)：『スクールソーシャルワーカーの仕事』中央法規。

学校ソーシャルワーク学会(2008)：『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規。